

《担当者名》○三国久美[mikuni@hoku-iryo-u.ac.jp]
木浪智佳子[kinami@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

小児看護学領域における看護実践および研究論文を批判的に吟味することにより、クリティカルシンキングの力や研究遂行能力を養う。学生は関連する領域の文献検索と収集を行い、入手した文献を読み、その領域の研究状況を概観するとともに、研究的視点や論文を作成するスキルを身につける。

【学修目標】

- 1) 小児看護学領域における先行研究を抄読し、研究の構成に沿った批判的検討を行う。
- 2) 自身の研究テーマに関連する先行研究を概観し、その結果を踏まえて看護実践に寄与するために実施可能な研究を検討する。
- 3) 臨床で出会った事例への看護援助に既存の理論を適用し、研究的視点から分析・解釈を行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	小児看護学領域における先行研究の検討	・文献を批判的に検討するとは ・文献検索と入手した文献の整理の仕方 ・事前に提示した文献の批判的検討	三国 木浪
3) 4	小児看護学領域における先行研究の検討	・自身が選択した小児看護学領域における国内外の研究を収集し、批判的検討を行う。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪
5) 6	小児看護学領域における先行研究の検討	・自身が選択した小児看護学領域における国内外の研究を収集し、批判的検討を行う。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪
7) 8	小児看護学領域における先行研究の検討	・自身が選択した小児看護学領域における介入研究もしくは根拠に基づく看護実践の報告に関する文献の批判的検討を行う。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪
9) 10	小児看護学領域における先行研究の概観と今後の研究課題の検討	・自身が今まで講読した小児看護学領域における研究を概観し、今後の研究課題を検討する。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪
11) 12	小児看護実践と理論の適用	・発達や心理・看護学領域における理論を選択し、自身が出会った事例に適用し、現象の分析・解釈を行う。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪
13) 15	小児看護実践と理論の適用	・発達や心理・看護学領域における理論を選択し、自身が出会った事例に適用し、現象の分析・解釈を行う。 (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	三国 木浪

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション30%、ディスカッション30%、課題レポート40%。

【教科書】

なし。適宜資料を配布する。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

第3回以降の学習テーマに関して、文献検索および入手した論文の批判的検討を行い、報告資料を作成して講義に臨むこと。